

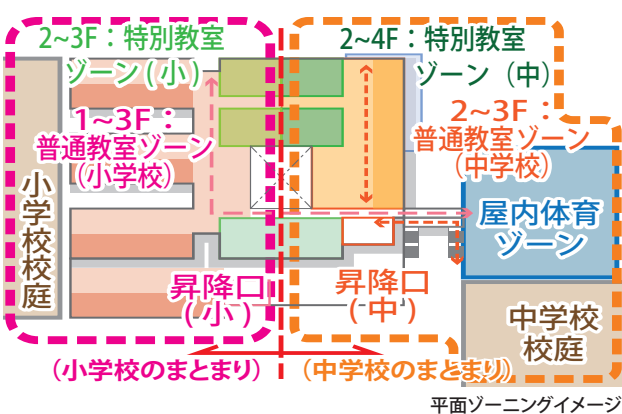
敷地特性を活かし小・中の明快な区分とつながりに配慮した学校づくり

隣接する上石神井小学校、中学校の校風・地域・敷地のポテンシャルを最大限に引き出し、1+1が2ではなく、3にも4にもなる学校づくりを行います。

小・中それぞれの学校運営に配慮した構成

明快な平面ゾーニング・動線計画

小学校と中学校は、校舎を東西のエリアに区分することで、独立した運営に配慮します。それぞれのエリアに近接する位置に、小・中のグラウンドを配置します。小学校昇降口は校舎1階に、中学校昇降口は2階にそれぞれ設けることで、小・中専用の階段を設定し、児童・生徒の登下校の動線が交わらない計画とします。二敷地をつなぐ渡り廊下は、屋内通路・屋外通路を併せ持つことで、移動がスムーズに行えるよう計画します。



児童と生徒のつながりを生む施設構成

小・中学校の独立した運営を確保しつつ、各フロアは双方分離することなく、つながりを持たせた施設構成となっています。これによって、児童・生徒がお互いの活動を身近に感じることができ、9年間の小中一貫教育がよりスムーズに行えるようになっていきます。また、3階は双方どちらでも使用できる普通教室を連続配置させることで、児童・生徒数の増減に柔軟に対応可能としています。

